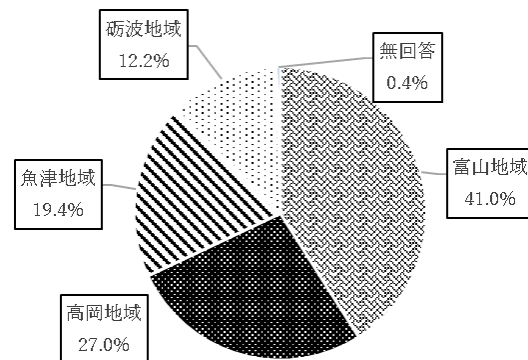
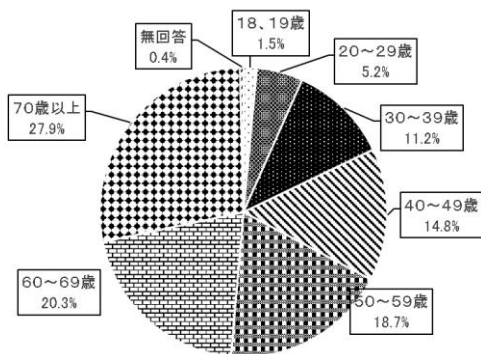


令和 4 年 11 月 25 日

令和 4 年度 県政世論調査結果（概要）

<調査の概要>

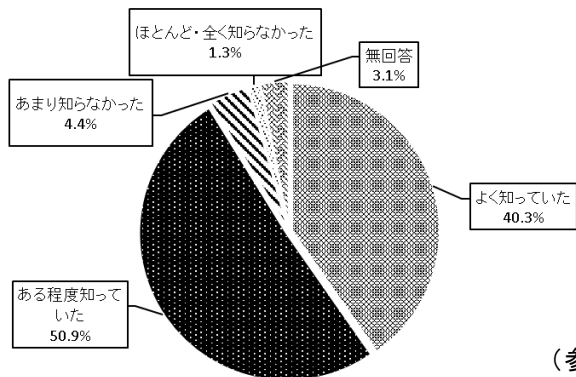
- 1 調査対象 県内に居住する満18歳以上の男女4,000人
- 2 調査期間 令和4年8月10日～9月2日
- 3 調査方法 郵送調査
- 4 回収数(率) 1,873人(46.8%) (10月1日時点)
 ※うちWEB回収 455 (全回収数の24.2%)
 < R3年度 : 2,161人 (54.0%)
 ※うちWEB回収520人 (全回収数の24.0%) >
- 5 年代・地域別
 (世代別) (地域別)



食品ロスの削減について

(1) 食品ロスの認知度について (単一回答)

・『よく知っていた』と『ある程度知っていた』を合わせて、前回(R3)同様、9割を超えている。



・よく知っていた	40.3%	(43.6%)
・ある程度知っていた	50.9%	(48.8%)
小計	91.2%	(92.4%)
・あまり知らなかった	4.4%	(4.7%)
・ほとんど・全く知らなかった	1.3%	(1.9%)
小計	5.7%	(6.6%)

※ () 内は前回調査 (R03) の結果

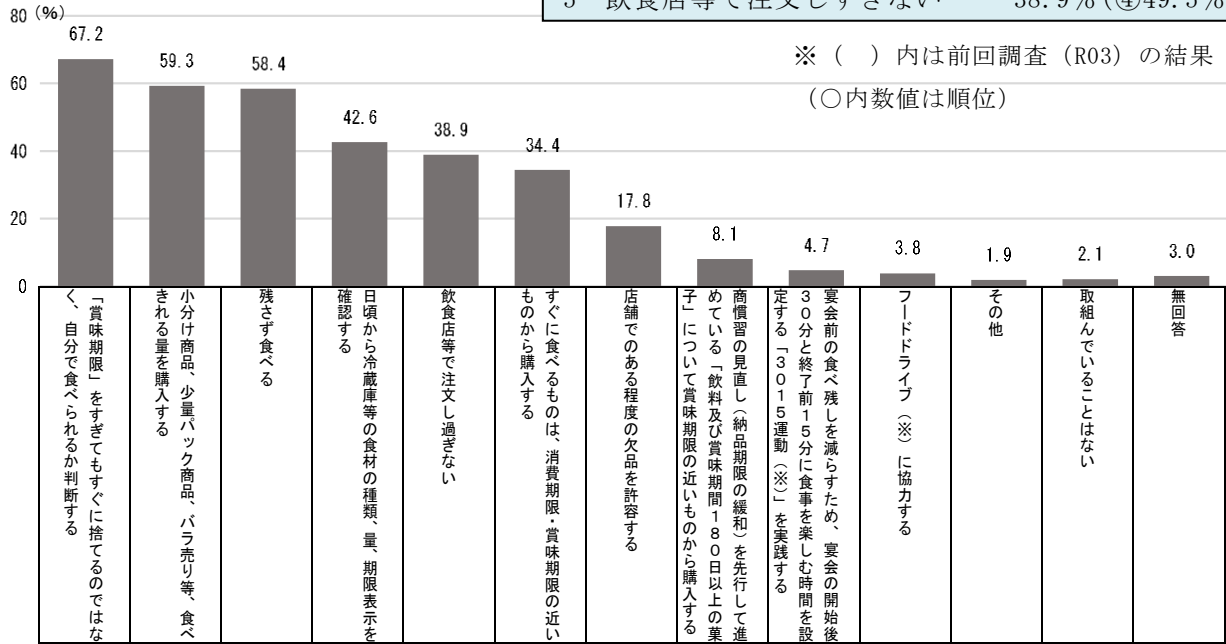
(参考) 食品ロス問題を認知し、削減に向けて何らかの取組みを行っている人の割合

	H30	R1	R2	R3	R4
県	70.1%	80.9%	81.3%	90.7%	89.7%
国	71.0%	76.5%	76.6%	78.3%	76.9%

(2) 食品ロスを減らすために取り組んでいることについて（複数回答：いくつでも）

・『自分で食べられるか判断する』が1位、次いで『食べ切れる量を購入する』、『残さず食べる』の順となった。

1	自分で食べられるか判断する	67.2% (①71.6%)
2	食べ切れる量を購入する	59.3% (③60.8%)
3	残さず食べる	58.4% (②67.8%)
4	種類、量、期限表示を確認	42.6% (⑤46.6%)
5	飲食店等で注文しすぎない	38.9% (④49.5%)



※「3015（さんまるいちご）運動」とは、立山の標高3015mにちなみ、「30」と「15」をキーワードにした富山型の食品ロス削減運動。

〔食べきり3015運動〕：宴会時において、開始後30分と終了前15分に自席で料理を楽しむ時間を設定し、食べきる運動。

〔使いきり3015運動〕：毎月30日と15日に家庭の冷蔵庫等をチェックし、食材を使い切る運動。

※「フードドライブ」とは、家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている福祉団体やこども食堂などに寄付する活動。